

平成25年度高齢者おでかけ促進「シニア半わり」社会実験

1. 社会実験について

(1) 実験の内容

バスICカード「リゅーと」を活用して、シニア世代を対象にバス運賃を半額割引にする社会実験を実施した。今年度は新たに詳細な行動や意識の変化を把握するためにモニターの中から聞き取り調査に協力してもらえる面談モニターを募集した。



- 実施期間 平成25年6月～平成25年10月（5か月）
- 登録料 2,500円
- 対象 市内在住の65歳以上
- 参加人数 282名

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	合計
モニター数	8	43	111	13	3	7	97	282
うち面談モニター数	0	2	7	1	0	1	6	17

検証資料

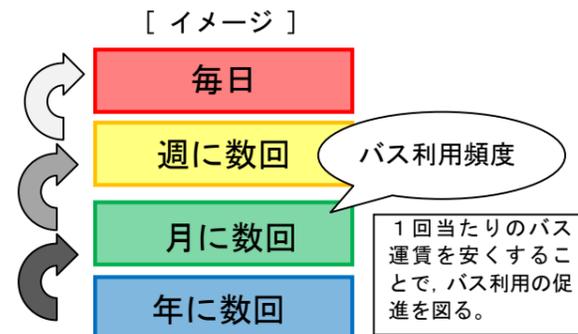
	説明
アンケート	社会実験前、実験中、実験後における外出状況、意識や行動の変化、ICカード「リゅーと」認知状況、おでかけ定期券の認知度
移動メモ	[通常用] 社会実験前、実験中、実験後における1週間の外出状況(目的地、目的地までの移動手段、目的地での目的) [面談用] 社会実験前、実験中、実験後における1週間の外出状況(目的地、目的地までの移動手段、目的地での目的、目的地での滞在時間、目的地での消費金額)
バス利用状況	専用ICカードから得られるバス利用状況
聞き取り調査 ※面談のみ	モニター宅へ訪問し意識の変化を調査

(2) 目的

誰もが移動しやすい交通環境の実現。特に高齢者のなかで普段あまりバスを利用しない人にもバスを乗ってもらうための仕組みづくり。

(3) 期待する効果

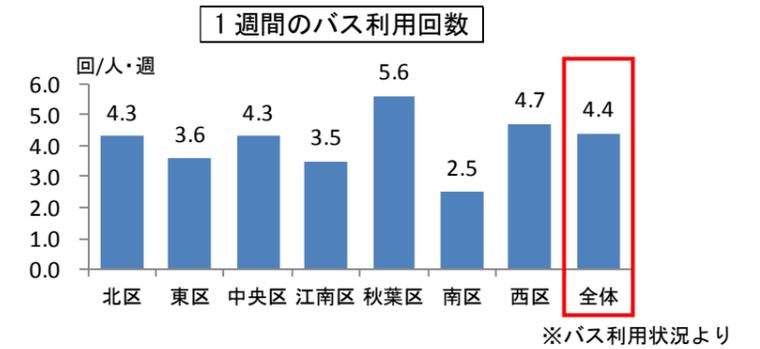
- 健康で生きがいを持って暮らしやすくなる
- まちなかに出かけやすくなる
- 車に頼らなくても移動しやすくなる



3. 実験期間中におけるバス利用状況

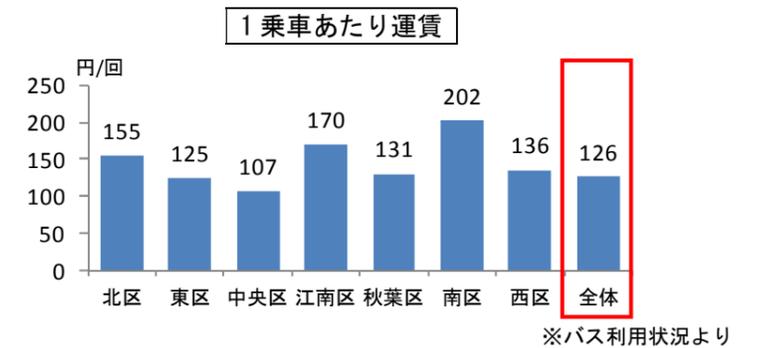
(1) 平均利用回数

1週間あたりのバス利用回数は平均4.4回/人。



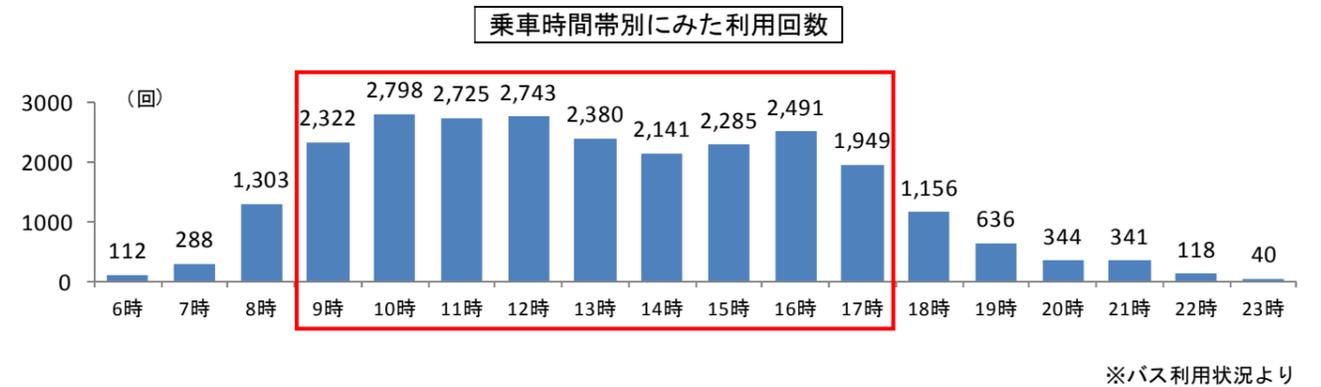
(2) 平均支払運賃

バス1乗車あたりの支払運賃は平均126円/回。



(3) 利用時間

時間帯別にみると9時台～17時台におけるバス利用者が比較的多い。



(4) 利用曜日

平日、休日関係なくバスを利用している。なお、祝日は期間中に4日間のみだったため、他の曜日に比べて利用回数が少ない。



(5) 利用頻度の高いバス停

乗車バス停、降車バス停、乗降車バス停の上位は新潟駅前、万代シティバスセンター前、本町、古町が占めている。

利用頻度の高いバス停一覧

■乗車バス停		■降車バス停		■乗降車バス停	
バス停名	利用回数	バス停名	利用回数	バス停名	利用回数
1 古町	2,635	1 古町	3,000	1 古町	5,635
2 新潟駅前	1,910	2 万代シティバスセンター前	2,003	2 万代シティバスセンター前	3,686
3 本町	1,745	3 新潟駅前	1,515	3 新潟駅前	3,425
4 万代シティバスセンター前	1,683	4 本町	1,248	4 本町	2,993
5 万代シティバスセンター	564	5 市役所前	711	5 市役所前	1,238
6 市役所前	527	6 駅前通	364	6 新潟駅南口	745
7 信濃町	444	7 寺尾公園前	361	7 信濃町	716
8 新潟駅南口	394	8 新潟駅南口	351	8 寺尾公園前	664
9 小針十字路	327	9 下道上が丘	350	9 東中通	624
10 寺尾公園前	303	10 東中通	345	10 下道上が丘	617

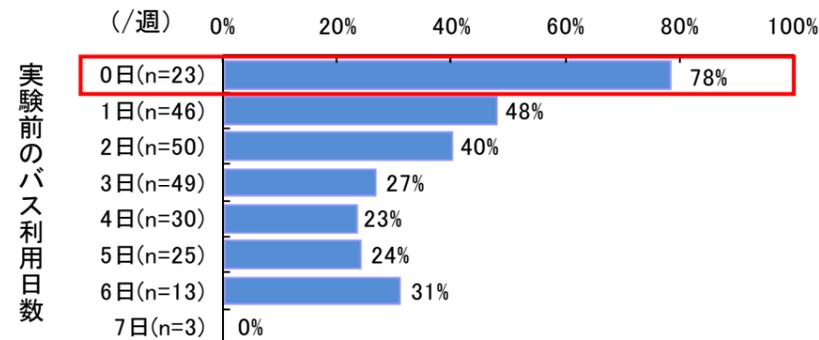
※バス利用状況より

4. モニターの行動や意識の変化

(1) バスの外出が少なかった方に対しておでかけを誘発

実験前に全くバスで外出しなかった方の78%が、1日以上外出したことからバスでのおでかけを誘発できた。

実験前に比べてバス利用日数が1日以上増えた方の割合

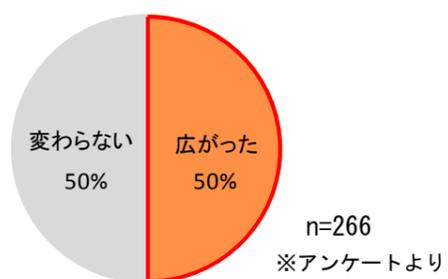


※移動メモより

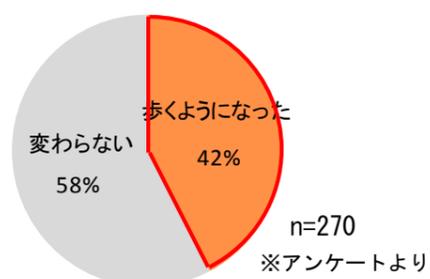
(2) 移動範囲の拡大や歩く機会が増加

移動範囲の拡大(50%)や歩く機会が増加した(42%)。

移動範囲の変化



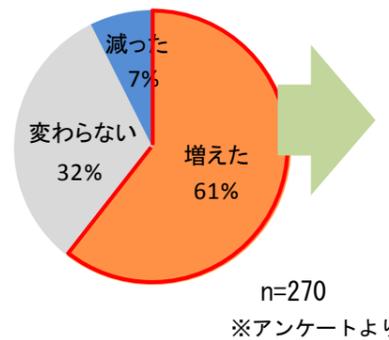
歩く機会の変化



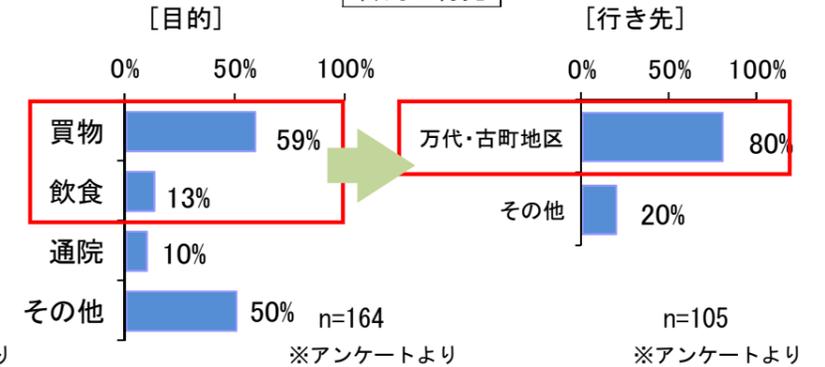
(3) 買物や食事のための外出回数が増加

バス利用回数が増えた方の目的は買物や食事の割合が高く、特にまちなかへの外出を促進した。

バス利用回数の変化



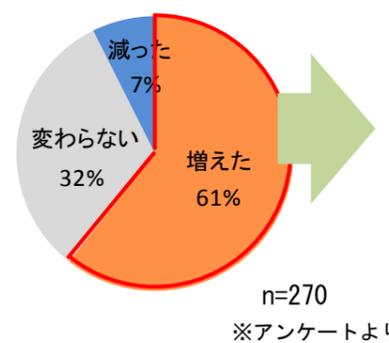
目的と行先



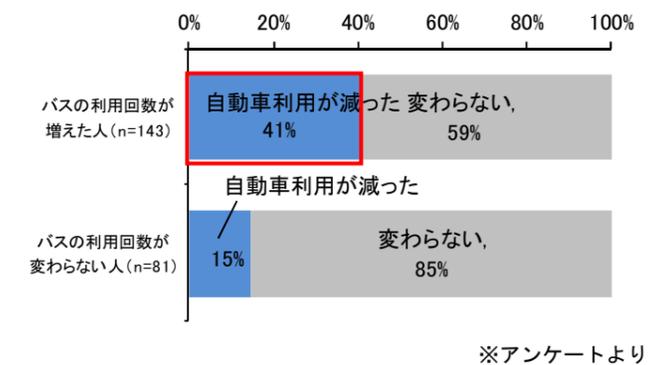
(4) 自動車の利用が軽減

バス利用回数が増えた方の41%が自動車での利用回数が減少した。

バス利用回数の変化



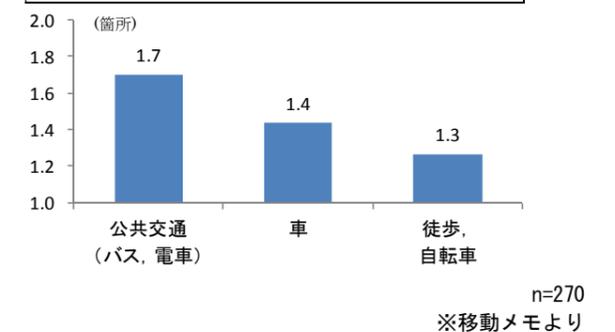
自動車利用回数の変化



(5) 公共交通を利用するとその他の交通手段よりも外出時の目的地数が多い

外出時の主な移動手段で公共交通を利用した場合の外出時の目的地数は、その他の移動手段に比べて多い。

主な移動手段別にみた目的地数[実験中]



(6) モニターの声

- 夫と私は実験をきっかけに自動車からバスへ切り替える決心をした。実験終了後は乗り放題定期券の購入を考えている。
- 実験終了後は無理して一度に用事を済ましている。また、実施してほしい。

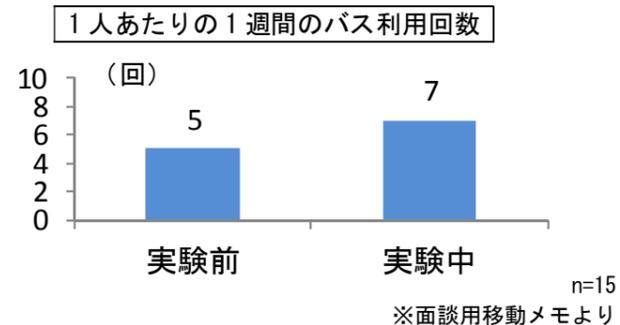
- 短い距離でもバスを利用する機会が増えた。また、遠方に出向きやすくなった。
- 自宅にひきこもりがちな高齢者対策として官民共同で取り組んでほしい。
- 運賃半額までは希望しないが、70歳以上を対象に割引があれば行動範囲も広がり健康増進やまちなかも賑わうのではないかと思う。
- シニア半わりが本格化したら、もっとバスを利用する人が増えると思う。

5. 面談モニター（17人）の行動や意識の変化

(1) バス利用回数や運賃が増加

1人あたりの1週間のバス利用回数が増加

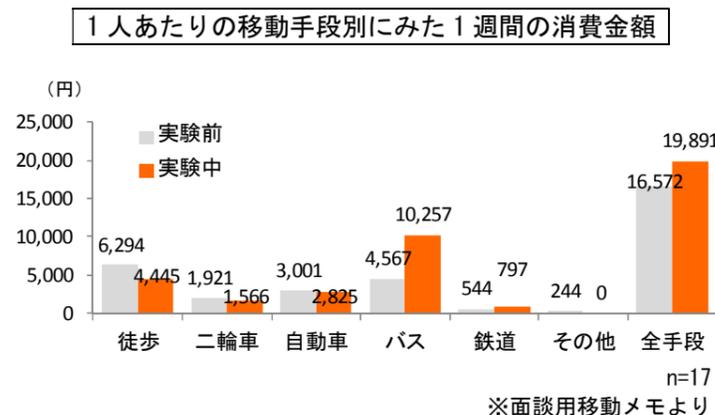
※実験前5回→実験中7回
(実験により2回増加)



(2) 目的地での消費金額が増加

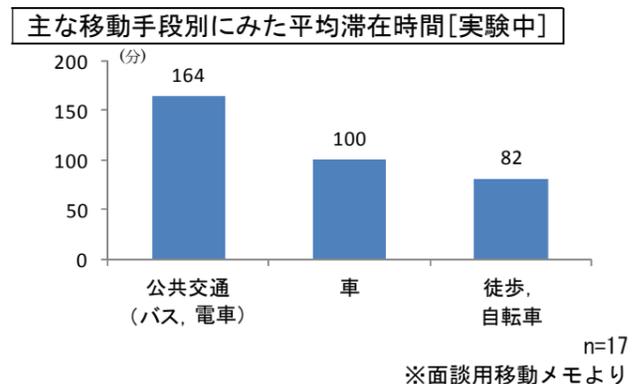
■ 1人あたりの1週間の消費金額が増加

※[全手段]
実験前16,572円→実験中19,891円
(実験により3,391円増加)



(3) 公共交通を利用するとその他の交通手段よりも目的地での滞在時間が長い

外出時の主な移動手段で公共交通を利用した場合、目的地での滞在時間はその他の移動手段に比べて長い。



(4) 聞き取り調査からみた行動や意識の変化

① 参加動機

- ・ 安くなるからと回答した人が最も多い(12人)。
- ・ その他の参加動機では、「バスをもっと利用したい」や「前回の社会実験にモニターとして参加した」と回答。

② 実験中における行動の変化

- ・ 実験中にバス利用回数が増加したと回答した人が最も多い(11人)。
- ・ 外出回数が増加した人の中には、「様々な企画に参加するようになった」、「友達と買物にでかけるようになった」、「買物や映画鑑賞等で中心地に行くようになった」と回答。

③ 実験中における意識の変化

- ・ 「安いので気軽に乗れるようになった」や「利用回数が増え乗り慣れると意外と便利だった」、「バスに対する関心が増した」と回答。

④ 実験後における行動の変化

- ・ 実験前の生活に戻ったと回答した人が最も多い(11人)。実験前に比べて「バス利用回数が増加」と回答した人は4人。

西区在住 70代男性

① 参加動機

運賃が安くなるから。ボランティア活動に参加するために利用したい。

② 実験中における行動の変化

ボランティアで中心地に行く回数が増加した。

③ 実験中における意識の変化

バスに乗り慣れると便利だったとわかった。

④ 実験後における行動の変化

ボランティアへ行く回数が増えた。外出回数が増えたため健康的になったと思う。

